

NSTだより

さめぎ市民病院
NST&嚥下治療センター
発行:2022年2月 VOL.35

今月の編集担当:
リハビリテーション
技術科



嚥下スクリーニングについて

・嚥下評価の方法

嚥下(飲み込み)に問題があるのかどうかを確認するためには、大きく分けて2通りの方法があります。1 つはスクリーニング検査(機器を用いない検査)で、もうひとつは、詳細検査(カメラやレントゲンを使用)があります(図1参照)。

今回は、嚥下スクリーニングについて、当院の方法をご紹介します。

・嚥下スクリーニングの目的

病気の種類やお体の状態によっては、一見飲み込みとは無関係の病気で入院しても、飲み込みが悪くなり、肺炎(誤嚥性肺炎)を合併してしまい、入院期間が長引いてしまうことがあります。

嚥下スクリーニングは、そのことを未然に防ぐために、**入院患者さん全員(小児科、産科以外)の嚥下機能を判定し、機能に見合った食事を提供することで合併症を予防し治療が円滑に進むことを目的としています。**

・入院時間診表のメリット

当院ではこれまでも入院時に嚥下スクリーニングをおこなってきましたが、医療安全管理委員会の協力を得て、今年度から問診表を新たに追加しました(図2参照)。問診は、入院が決まったときに外来で看護師が聞き取りをおこなっています。コロナウイルス感染防止対策のため面会制限中で、入院後にスタッフがご家族とお会いする機会が少ない中、**患者さんのご自宅での様子を知るために非常に有効な手段となっています。**

図2

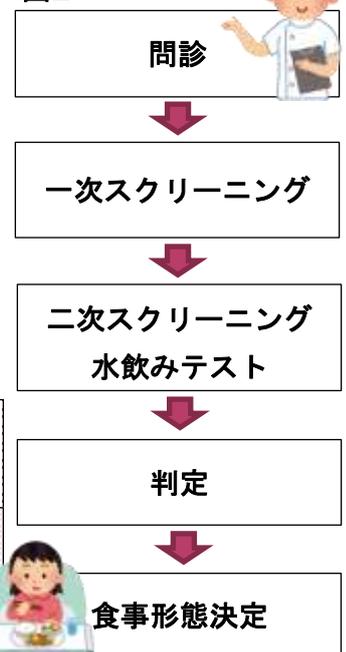
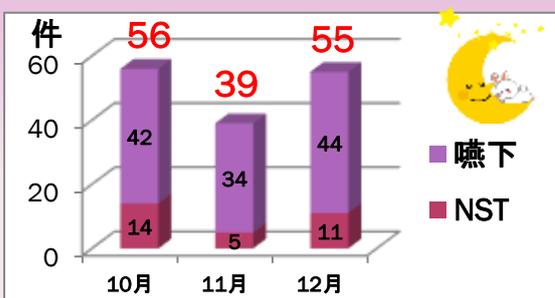


図1. 嚥下評価の方法

嚥下スクリーニング検査	詳細検査
<ul style="list-style-type: none">・ 問診票・ 水飲みテスト・ 反復唾液嚥下テスト	<ul style="list-style-type: none">・ 嚥下内視鏡検査・ 嚥下造影検査

担当:言語聴覚士 名出美紀

月別栄養サポートチーム加算件数



嚥下調整食学会分類 2021 について



嚥下調整食の新しい学会分類が 2021 年に発表されました。前回の学会分類 2013 から 8 年経って、新たな知見やパブリックコメントを受けて改訂されています。